

株式会社アイ・オー・データ機器（石川県）

～ 時代を一步先行く、IT業界のリーディングカンパニー ～

1. 常識にとらわれない大胆な発想で飛躍

金沢工業大学で、コンピュータの開発と周辺機器をつなぐ入出力部分(インターフェース)の研究を行っていた細野現社長は、一般の人でコンピュータの知識を持っている人はほとんどおらず、パソコンで「何かしよう」という発想が皆無に近かった昭和51年に株式会社アイ・オー・データ機器を創業。

創業後5～6年は、主に地元織物工場の自動化を手がけ、熟練の職人技が要求される織物の色や柄をコンピュータ上で修正する装置等を開発していたが、昭和58年に「パソコン用8インチフロッピーディスクユニット」を開発して、日本電気株式会社製PC-9800シリーズパソコン用周辺機器分野に参入した。翌年にはPC-9800シリーズ用増設メモリーボード開発中に「限られたアドレス空間で大量のメモリーを扱うテクニック」として「IOバンク方式」を考案。グラフィック系などの大容量のアプリケーションが動くようになり、大きなデータも扱いやすいIOバンク方式は、業界での地位を確立した。さらに、細野社長の発案により、IOバンク方式を活用した「RAMディスク」を開発し、飛躍的にパソコンの使い勝手を良くしたことで、アイ・オー・データ機器は急成長を遂げる。

2. 「ステイタス」から「市場での優位性確保」のために

製品のライフサイクルの短いパソコン周辺機器業界においては、特許により権利化することよりも早期に製品開発すること、標準化することに力点が置かれていた。同社も特許権を一種のステイタスとしてのみとらえており、特許や意匠の取得は知名度や認知度を上げるために使っていた。

しかし、パソコンや周辺機器産業が成長し、熟成時期に入ると、市場での優位性を確保するためには、特許を取得することが重要であることを痛感する。そこで、平成12年頃から技術者の意識改革を始め、平成16年度から技術者向けの知財社内教育も実施している。また、発明を研究者の中だけで止めず、製品化に結びつけるようにするため、3年前に知財部を開発部から独立させた。さらに、外部の技術顧問を活用しながら社内で月1回開催するアイデア検討会で、発明のランク付けや出願・審査請求の適否を検討しており、自社にとって必要な権利とは何かを常に見極めることができる体制をとっている。

3. ニーズを実現に、豊かなデジタルライフの提供を目指す

パソコン周辺機器は、性能が複雑かつ理解が難しいことから、性能の違いでは差別化を図りにくい。機能性の追求に加えて、価格や環境、安心・安全といった消費者の視点から製品開発を行っているが、成熟時期に入り、多様化・高度化の一途をたどる

パソコン周辺機器業界でシェアを伸ばすためには、ニーズの掘り起こし作業が欠かせないとする。いち早く消費者の欲しいものを製品化し市場に投入するためには、欠如している技術については十分なノウハウを持っている企業と組んで技術を補完しあうこと、すなわち研究開発における他社とのパートナーシップが不可欠であると考えている。他社の権利を尊重して、ライセンス契約を結び、持てる技術をすべて組み合わせることで消費者ニーズを実現する。機能性だけでなく、デザイン性やオリジナリティのある製品は、多くの消費者に「欲しい」と思わせることに成功している。

幅広い事業展開を可能にする広く・強い権利の取得を模索している同社は、パソコン周辺機器分野で培ってきた技術力と知的財産を活用して、家電とパソコンの狭間で融合するデジタル家電という新しい市場での地位確立を目指している。

【保有権利に基づく製品例】



交換用カートリッジHDD (RHD)
ハードディスクをカセット感覚で交換できる新スタイル『Relational HD』シリーズの交用カートリッジ



交換用カートリッジHDD (RHD)



液晶ディスプレイ (LCD-A175GW/PM)

<会社概要>

名称及び代表者名	株式会社アイ・オー・データ機器 代表取締役社長 細野 昭雄
本社所在地	石川県金沢市桜田町3丁目10番地
創業	1976（昭和51）年
資本金	35億8,807万円
従業員数	542人
主要製品	PC周辺機器
電話	076-260-3377
URL	http://www.iodata.co.jp/